

委員会報告

Committee Report

国際会議報告

International Meetings

委員会報告

地区交通分科会報告

ACTIVITIES OF STUDY GROUP ON ZONAL TRAFFIC SYSTEM

地区交通分科会

By Study Group on Zonal Traffic System

1. 分科会発足の経緯と活動

わが国においては、1960年代から70年代にかけての交通事故多発が「交通戦争」という言葉を生み出すなど、安全性への取組みが活発となり、従来の広域幹線や都市幹線交通に対する計画では処理しきれなかった地区の交通計画の必要性が重要視されるようになった。その後、モータリゼーション偏重に対する反省から、交通環境の改善・人間性の回復、さらには歩車共存といった思想を反映して、さまざまな試みが重ねられてきた。欧米での新しい試みも紹介されるようになり、学会レベルでも地区交通に関する研究が多くみられるようになった。

このような背景の下、各地でそれぞれに特有のテーマをもった研究活動が進められ、その1つとして関西では昭和60・61年度に土木学会関西支部共同研究グループ（代表：西村昂大阪市立大学教授）が編成され、翌62年度からは同じく地区交通計画研究委員会（代表：西村昂）が設置されるに至りますますます充実した取組みが行われた。この成果は2年間の委員会活動の後、地区交通計画講習会（『よりよい地区の交通環境を目指して—その手法と事例』平成元年7月開催）で報告され、多くの関係者から共感と反響を得ることができた。さらに、地区交通の問題は各地域で特有の条件をもち、より広い視野からのアプローチが必要であるとの認識に立ち、昭和63年関係各位の支援もあって、土木計画学研究委員会に地区交通分科会が発足の運びとなった。

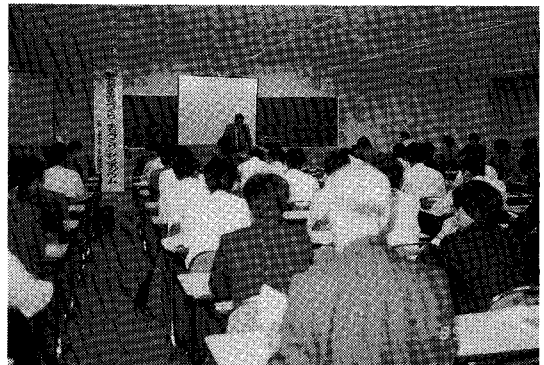
分科会は、形式的には西村昂代表（大阪市立大学）と各地域から選出された数名の幹事団とにより運営され、過去4回の分科会では毎回30名以上の参加者によってそれぞれ問題となっている課題が取り上げられてきた。

地区交通の課題は、上述のように多様な背景とともに顕在化するものであり、そのため、課題の抽出や分科会活動の方向性に関しては、分科会参加者へのアンケート調査なども踏まえて議論が重ねられてきたところである。その最中、土木計画学シンポジウム開催の機会を得ることになり、分科会としては多くの関係者への問いかけを行い、さらにこれからの課題を明確化していく上でのステップとしてシンポジウムを位置づけることとした。

2. 第23回土木計画学シンポジウム—魅力あるみちづくり・まちづくり—の開催

シンポジウムの構成は、分科会としての位置づけに従って多くの事例を通じて新しい試みや問いかけ、さらには十分な議論が可能となるよう取りまとめられた。

シンポジウムは平成元年11月9・10日の両日中央大学記念会館において開催され（写真—1）、分科会以外の関連分野からも講師あるいはパネリストを迎え、幅広い



写真—1 シンポジウム風景

視野からの話題提供と活発な議論が展開された。

シンポジウムの内容は、プログラム(表一)からも明らかなように3つのセッションとそれらに対する意見交換およびパネルディスカッションで構成され、特に第1日目には住居系、2日目には都心商業業務系が主として取り上げられた。これは、議論の明確化によって、各セッションに共通の議論の場を設け、しかもできるだけ広い視野からの意見を得るための配慮であった。

以下には、各セッションの構成上の主旨(分科会として留意した点)について紹介しておく。

①セッション1：地区交通の課題と計画 都市の規模や地区の特性によって異なるさまざまな課題を整理するとともに、地区交通計画誕生の背景と歴史の変遷の中で、今後重要となるであろういくつかの課題を、特に都市交通・計画との関連、最近の研究・事業の方向、住民参加論など幅広い視点で論述する。

②セッション2：住区交通計画の潮流と課題 住居系地区での内外の最新事例を通じて、面的アプローチ、実験的アプローチ、街路の演出と住民参加による管理手

表一 第23回土木計画学シンポジウム「魅力あるまちづくり・まちづくり」プログラム

第1日目 午前	
開会あいさつ	土木計画学研究委員会副委員長 門田博知
シンポジウムのねらいと構成	地区交通研究分科会代表 西村 昂
【セッション1 地区交通の課題と計画】	
	進行司会：渡辺千賀恵(岐阜工業高専)
(1) 地区交通における課題	塚口博司(京都大学)、日野泰雄(大阪私立大学)
(2) 地区交通計画の成立と進展	太田勝敏(東京大学)、久保田尚(埼玉大学)
(3) 討議・質疑	
第1日目 午後	
【セッション2 地区交通の課題と計画】	進行司会：高井広行(近畿大学)
(1) 西ヨーロッパ諸国における住区内の面的交通抑制	小谷通泰(神戸商船大学)
(2) 街路の演出手法	花輪 恒(GK設計)
(3) 住区交通抑制における実施上の課題	山中英生(徳島大学)
(4) 実験的アプローチを用いた交通改善の実践	久保田 尚(埼玉大学)
(5) 住区内街路の管理と住民参加	竹内伝史(中部大学)
【コメントおよび意見交換】	座 長：門田博知(広島大学)
	コメンテーター：西村 昂(大阪私立大学)、榊原和彦(大阪産業大学)
	青木英明(軽量計画研究所)
第2日目 午前	
【セッション2 都心商業業務地区における交通計画】	
	進行司会：原田 昇(東京大学)
(1) 駐車場案内システムと交通コントロール	栗本 謙(名城大学)
(2) 街路整備と商店街の活性化	藤埴志司(アーバンスタディ研究所)
(3) ウィンターシティの街路環境設備	堂柿栄輔(北海道学園大学)
(4) 歴史的観光都市の交通改善	永井 護(宇都宮大学)
第2日目 午後	
	進行司会：三星昭宏(近畿大学)
(5) 都心における歩行者空間設備	村田隆裕(科学警察研究所)
(6) 都心商業業務地区における駐車問題と対応策	高田邦道(日本大学)
(7) 都心ターミナル地区の計画—駅前広場の再生—	山川 仁(東京都立大学)
【パネルディスカッション みち・ひと・くるま そしてまちの顔づくり—魅力ある都心空間の創造に向けて—】	座 長：五十嵐日出夫(北海道大学)
	パネリスト：新谷洋二(東京大学)、鳴海邦碩(大阪大学)
	浅野光行(建設省建築研究所)、千葉博正(北海道自動車短期大学)
開会あいさつ	土木計画学研究委員会副幹事長 中村良夫

法など、各種試みの実現性や効果について議論する。

③セッション3：都心商業業務地区における地区交通計画 都心地区で話題となることの多い、駐車問題、商業地区の活性化、歩行者空間の整備、さらには歴史的都市やウインター・シティあるいは都心ターミナルといった特定の地区での課題とその取組みを議論する。

④意見交換とパネルディスカッション セッション1,2での話題提供の後、個別テーマや地区交通計画全般について、さまざまな立場のコメンテーターからの意見を用意し、今後の課題や方向性について検討する。また2日目のセッション3終了後には、都市空間の創造と都心地区における交通計画のあり方をテーマに、パネル形式によりフロアーを交えた議論の場を用意する。

3. シンポジウムの盛会と今後の活動

シンポジウムには、地区交通の計画に携わるさまざまな分野から200名に上る参加者を得ることができた。

このことは、先に紹介した地区交通計画講習会(土木学会関西支部)の盛会とも併せて、地区交通問題への関心の高さとそれに対応した計画への積極的な取組みの必要性を改めて認識させるものであった。それと同時に、シンポジウム開催中、話題提供者をはじめとする分科会メンバーと参加者との間で具体的な意見交換がなされ、今後の分科会での取組みへの要望とともにその成果に大きな期待が寄せられた。こうした状況の中、シンポジウムの開催は、今後の地区交通計画の方向性を探るために貴重な議論の場を提供し得たと思われる。

また、一方では本シンポジウムに先立って開催された「高齢者・身障者のための都市・地域整備」研究分科会(代表：五十嵐日出男北海道大学教授)による『活力ある高齢化社会とまちづくり』講習会でも示されたように、地区交通計画に密接にかかわる研究分野の活動も活発に進んでいることから、分科会としては、今後このようなさまざまな分野の方々との交流を通じて、魅力あるまちづくりの実現を目指したいと考えている。

(日野泰雄/Yasuo HINO:大阪市立大学 土木工学科助手)

参 考 文 献

- 1) 土木計画学研究委員会：第23回土木計画学シンポジウムテキスト「魅力あるまちづくり・まちづくり」, 土木学会, 平成元年11月。
- 2) 地区交通計画研究委員会編：平成元年度講習会テキスト・地区交通計画(よりよい地区の交通環境を目指して—その手法と事例), 土木学会関西支部, 平成元年7月。
- 3) 土木計画学研究委員会編：第20回土木計画学講習会テキスト・活力ある高齢化社会とまちづくり, 土木学会, 平成元年9月。

(1990.5.30・受付)